

3つの活断層の連動を評価すれば、 大飯3・4号の耐震安全性は成り立たない

◆関西電力が連動を評価しているのはFo-BとFo-A断層だけ（約35km）
→基準地震動700ガル。

◆これに、熊川断層を加えて3つ活断層の連動を考慮すれば（約60km）
→基準地震動は1,260ガルを超える（石橋克彦氏）

◇原子力安全・保安院は1月27日、これまで5km以上離れた活断層で連動を否定していたものについては、連動の可能性を検討し、結果を2月29日までに報告するように電力各社に指示を出しました。

◇下記のように、3つの活断層が連動して動くことを考慮した場合、大飯原発3・4号の耐震安全性は成り立たなくなります。ストレステストの前提は崩れてしまいます。2月8日の「ストレステスト意見聴取会」で結論をだせる状況ではありません。運転再開などもってのほかです。

現行評価：関電 2011.2.24 小浜市環安協提出資料より



関電は、海底にある2本の活断層（Fo-B断層とFo-A断層）による約35kmの連動は評価しているが、内陸の熊川断層も含めた60km以上の連動を否定している
(2012年1月28日付 読売新聞の図に加筆)

評価対象と 評価項目	大飯3・4号		
	評価値	評価基準値	比(%)
制御棒挿入時間(秒)	2.16	2.2	98
蒸気発生器支持構造物・構造強度(MPa)	100	157	64
格納容器本体構造強度(MPa)	1.19	2.00	60
原子炉建家耐震壁せん断ひずみ×10 ⁻³	1.40	2.00	70

FoA-FoBの連動で現行700ガル。熊川断層を加えた3連動では1.8倍の1260ガルになる（石橋克彦氏）。
⇒上表機器すべてで、評価値が評価基準値を上回る。

保安院の指示（1月27日）

<http://www.meti.go.jp/press/2011/01/20120127003/20120127003.html>

..これを受け、各原子力事業者に対して以下の事項を踏まえ活断層の連動性について検討するよう指示しました。

- (1) 内陸地殻内の活断層の連動性の検討において、活断層間の離隔距離が約5キロメートルを超える活断層等その連動性を否定していたものに関し、地形及び地質構造の形成過程（テクトニクス）、応力の状況等を考慮して、連動の可能性について検討すること。
- (2) (1)の検討に当たって、活断層の連動を否定する場合は、過去に当該地域において発生した最大規模の地震から推定される断層の長さを主な根拠としないこと。